

集団内の関係葛藤と課題葛藤 — 誤認知と対処行動に関する文化差の検討 —

○村山 綾¹⁾・三浦麻子²⁾

1) 関西学院大学大学院文学研究科・応用心理科学研究センター 2) 関西学院大学文学部

Keywords : 集団内葛藤, 対処行動, 誤認知

問題

本研究の目的は、2種類の集団内葛藤(関係葛藤・課題葛藤)の双方への誤認知、および2種類の葛藤の程度を操作し組み合わせた4つの集団内葛藤状況における対処行動の選好(村山・三浦, 2012)について、文化差を検討することである。先行研究では、日本人は欧米人と比較して回避的な葛藤対処行動をとることが示されてきた(Barnlund, 1989)。この理由としては、日本人が集団の調和を重視する点、また関係流動性(Schug, et al., 2010)の低い社会において、集団内の関係性に悪影響を及ぼしかねない葛藤の顕在化を極力避けようという動機が働いている点などが考えられる。ただし、村山・三浦(2012)によるシナリオ実験で、集団内の関係性が良好な(すなわち、関係葛藤の程度が低い)場合は、課題葛藤に対して能動的な対処行動が選好されることが示された。本研究ではこの知見を日本人参加者で再度検証するとともに、各葛藤状況におけるアメリカ人参加者の対処行動の選好パターンと比較し、日本人の対処行動の特徴を明らかにする。

方法

参加者 日本人大学生100名(男性36名、女性64名、平均年齢20.63歳(SD=2.11))、アメリカ人大学生121名(男性38名、女性83名、平均年齢20.77歳(SD=4.29))が参加した。

シナリオ 村山・三浦(2012)と同様のシナリオの日本語版と英語版を用いた。課題葛藤と関係葛藤の程度をそれぞれ高低で操作した合計4種類のシナリオを作成した。

測定指標 (1)集団内葛藤の程度 各葛藤状況のシナリオを読んだ後、関係葛藤(5項目)と課題葛藤(4項目)が認知される程度を、集団内葛藤尺度(Jehn, 1994)合計9項目を用いて測定した(7件法:「1=全くない」から「7=かなりある」)。(2)集団内葛藤対処行動 各シナリオの葛藤状況における集団内葛藤対処行動について、能動性と同意性を集団内葛藤対処尺度(村山・藤本・大坊, 2005)14項目(各7項目)で測定した(7件法:「1=全く使わない」から「7=かなり使う」)。

結果と考察

各条件における集団内葛藤認知と対処行動の選好に関する評定平均値(Table 1)を従属変数とし、2(課題葛藤:高低)×2(関係葛藤:高低)×2(国:日本、アメリカ)の3要因混合分散分析を行った。両文化において課題葛藤得点、関係葛藤得点に対して関係葛藤と課題葛藤の有意な主効果が得られ、シナリオ操作に応じた葛藤認知と同時に誤認知も生じることが示された。また、アメリカ人では関係葛藤と関係なく、課題葛藤が高い場合に能動性が高くなるのに対して、日本人では関係葛藤が低い場合に、課題葛藤が低い場合より高い場合で能動的な対処行動が選好された。同意性については、アメリカ人では課題葛藤と関係葛藤の有意な主効果が得られ、それぞれの葛藤が高い場合より低い場合で同意性得点が高かった。一方日本人は関係葛藤の主効果のみが有意で、関係葛藤が高い場合に同意性得点が低くなることが示された。日本人の葛藤認知および対処行動の選好パターンは、村山・三浦(2012)の結果が再現された。葛藤の認知に関しては大きな文化差が見られない一方、対処行動の選好には文化差が見られ、日本人はアメリカ人よりも関係葛藤に敏感であるものの、関係性が良好でありさえすれば、積極的な対処行動の選択につながる可能性が示唆された。今後はこうした傾向を行動レベルで検討する必要がある。

Table 1 各葛藤状況における集団内葛藤認知および対処行動の選好の評定平均値(SD)

		課題葛藤低		課題葛藤高	
		関係葛藤低	関係葛藤高	関係葛藤低	関係葛藤高
関係葛藤得点	日本	2.34 (1.08)	4.40 (1.25)	3.49 (1.21)	5.58 (1.09)
	アメリカ	2.29 (1.11)	4.32 (1.21)	4.19 (1.25)	5.74 (0.94)
課題葛藤得点	日本	2.55 (1.40)	3.47 (1.58)	5.54 (1.03)	6.09 (0.82)
	アメリカ	2.62 (1.12)	4.10 (1.16)	4.91 (1.19)	5.85 (0.92)
能動性	日本	4.58 (1.22)	4.04 (1.40)	4.90 (1.32)	4.09 (1.57)
	アメリカ	4.49 (0.85)	4.30 (0.90)	4.54 (0.90)	4.55 (1.04)
同意性	日本	5.60 (0.82)	5.18 (0.89)	5.68 (0.85)	5.19 (0.95)
	アメリカ	6.00 (0.74)	5.30 (1.04)	5.59 (0.91)	4.96 (1.31)

引用文献 Barnlund, D. C. (1989). *Communicative Styles of Japanese and Americans: Images and Realities*. Wadsworth. / Jehn, K. A. (1994). *International Journal of Conflict Management*, 5, 223-238. / 村山・三浦(in press) 社心研 28(1) / 村山・藤本・大坊(2005). 日本心理学会第69回大会発表論文集, 236. Schug, et al. (2010). *Psychological Science*, 21(10), 1471-1478.